# 第4話「理想の部屋に住みたい！」

| | |
|---|---|
| **課題** | 買いたいものの名前がはっきりと思い出せない |
| **ストラテジー** | 思い出せないところを「なんとか」に置き換える |
| **効果** | ・名前を完全に思い出せなくても、相手に伝えることができる<br>・思い出せない名前を相手が教えてくれるときがある |

## ＜課題＞

**買いたいものの名前がはっきりと思い出せない**

スアンはお店で買いたいものがありましたが、名前をよく覚えていませんでした。そのため、何が買いたいかを店員に伝えることができませんでした。

## ＜ストラテジー使用場面＞

モニカ：　スアン、どうした？まだ何か探してるの？

スアン：　アレがほしいんです。なんとかボー！

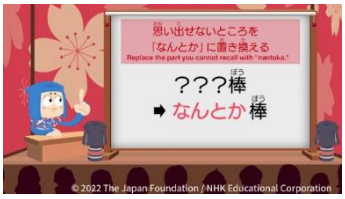
モニカ：　なんとかボー？あ、つっぱり棒？

スアン：　そう　つっぱり棒！

モニカ：　それならこっちこっち。

## ＜スアンが使ったストラテジー＞

**思い出せないところを「なんとか」に置き換える**



スアンは買いたいものの名前の「棒（ボー）」という部分だけ覚えていました。そこで、覚えていない部分を「なんとか」に置き換えて、「アレがほしいんです。なんとかボー！」と言ってみました。するとモニカは、スアンが「つっぱり棒」を探していることがわかりました。

## ＜どんなストラテジー？＞

会話をしていると、言葉が思い出せなかったり、なかなか出てこなかったりすることがよくあります。スアンのように、お店で買いたいものの名前を思い出せないということもよくあるのではないでしょうか。そんなときに使えるのが、このストラテジーです。このストラテジーのいいところは、「なんとか」を使ったあいまいな形でも相手に伝わることがあるということです。

また、モニカは「あ、つっぱり棒？」と言って、スアンが思い出そうとしていたものを確認しています。このように、「なんとか」を使った後に、相手が名前を教えてくれることがあることも、このストラテジーのいいところだと言えます。

人はいつもことばを 100%覚えている状態でコミュニケーションをしているわけではありません。あいまいな言い方をしたり、相手に助けてもらいながらコミュニケーションをしています。ですので、「なんとか」のように、言葉が思い出せないときに便利なストラテジーを知っておくと、もっと自然にコミュニケーションをすることができます。

## ＜どうやって使う？＞

このストラテジーは名前がよく思い出せないというときに使えます。商品の名前だけでなく、場所の名前に使うときもありますし、人の名前に使うときもあります。

スアンはお店で買いたいものの名前を思い出せないときにこのストラテジーを使っていました。スアンは「つっぱり棒」の「棒（ボー）」という部分だけ覚えていて、「つっぱり」の部分が思い出せなくて、「なんとかボー」と言いました。このように、名前の思い出せない部分を「なんとか」に置き換えます。

「日本語国際センター」という場所の名前を例にすると、「日本語」が思い出せなかったら「なんとか国際センター」、「国際」が思い出せなかったら「日本語なんとかセンター」、「センター」が思い出せなかったら「日本語国際なんとか」と言うことができます。「日本語国際」が思い出せなかったら「なんとかセンター」となります。

## ＜もう一歩＞ 「なんとか」のアクセント

「なんとか」が言葉の後ろにあるときは「な↓んとか」というアクセントになります。そうじゃないときは「なんとか〇」というアクセントになります※。

例） 日本語国際センター

「日本語国際な↓んとか」

「なんとか」が後ろにあるので、アクセントは「な↓んとか」になります。

「なんとか国際セ↓ンター」、「日本語なんとかセ↓ンター」

「なんとか」は後ろじゃないので、アクセントは「なんとか〇」になります。

※「↓」はそこに音の下がり目があることを表します。また、「〇」は下がり目がないことを表します。

## メモ

14話でも言葉が思い出せないときに使えるストラテジーを取り上げています。